西城かわらばん

発行　2009・6・15　第7号

Takada Nishishiro Hospital … News letter No.7

医療法人高田西城会　高田西城病院
理事長・院長　川室 優
〒943-0834　上越市西城町2-8-30
Tel (025) 523-2139/Fax 526-0102
http://www.nishishiro-hp.or.jp/

もうじき高田公園のお堀に
蓮の花が咲きそろいます

地域の健康は"こころ"の回復から
－仁寿の道を共に－

理事長・院長　川室 優

高田公園の景色が葉桜に変わると、病院周辺の木々は美しい深緑の頃を迎え、心地良い季節となります。

日本の国は、世界の金融危機の影響を受け、百年に一度の経済不況と言われております。そのため、雇用状況も悪化し、多くの皆様が"こころ"を痛め、悩み、"こころ"病む方々が増えつつあります。地域の健康とは、その地域に住む方々が、"こころ"も"体"も健やかであることが重要なことではないでしょうか。当院は、"こころ"病む方々を温かくお迎えし、治療によってそれを癒し、こころの病が回復することをお手伝いいたします。

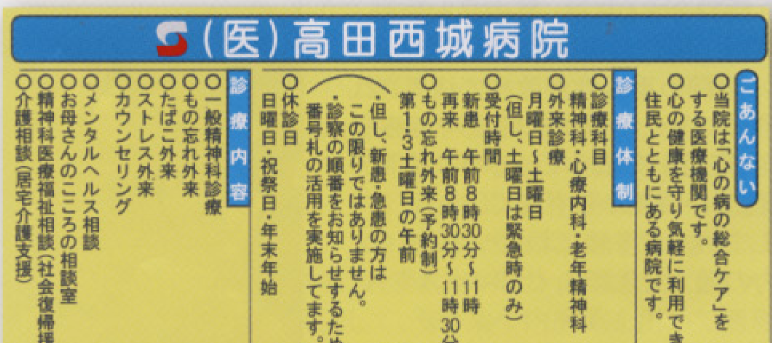
当院は、昨年より、もの忘れ外来（担当：湯浅悟先生）、たばこ外来（担当：川村剛先生）、安眠外来（担当：植木洋一郎先生）などの特別外来を開始いたしました。『こころの治療病院』に対して、世間では、とかく特別な人のみが治療を受けるところとお考えの方がおられますが、21世紀は"こころの世紀"と称されるように、少子高齢化社会問題、メンタルヘルスケアを必要とする労働環境問題、親子の問題を抱える家庭機能不全問題など、多くのストレスに苦しむ方々の"こころ"の治療が必要となっております。

当院を訪れるにあたり、受診するのは敷居が高いなどと考えず、お気軽にご利用いただければ幸いです。最近は、可能な限り入院をせずに（症状によっては必要な場合もあります）、通院して治療できるような薬も開発されてきましたので、こころを病む方々も地域で暮らしやすくなっています。また、生活支援を中心とした『障害者自立支援法』が制定されて、不備な点も改正されつつあります。

創立者　川室貫治がこの地に地域の皆様と共に『こころの治療病院』として当院を開院してから、来年で90年を経ようとしております。当院スタッフ一同は近代医学と医療の父である呉秀三博士から賜った論語"仁寿"の道を歩み、常に地域の皆様のこころの回復を願っております。

病院の総合案内板を新設しました！

事務部長　斉藤 浩



平成20年11月、当院玄関前に新看板を設置しました。これによって、患者様が自分の病状等に合った適切な医療機関を選択しやすくし、また適切な診療を受けられる手助けになるものと考えています。

当院では、患者の人権尊重、説明と同意に基づく医療、患者の自己決定を尊重した治療、ならびに生活支援、質の高い医療の提供を基本理念の中心とし、地域の「こころ」を支えたいと考えております。とかく精神科の敷居は高く捉えられがちですが、健やかな「こころ」の維持のために、気軽に当院をご利用いただけたら幸いです。

報告

第１回「上越」和・道グループ学会を終えて

2月13日 川室道隆記念ホールにて開催

参与 山崎 隆昌

新しい事業を始めることは苦労の多いことですが楽しくまた夢も膨らみます。

去る2月13日、第1回「上越」和・道グループ学会が開催されました。本学会は《和・道グループに所属する現場の職員が専門的立場から実践発表や研究発表を行い、相互の理解と医療福祉の学術的交流を深めること》を目的とします。

川室和道グループ会長（当院院長・理事長）の挨拶に続き、上越教育大学教授 増井 晃先生による特別講演が行われました。演題は「摂食障害について」。現代社会の女性に共通して見られる「やせ思考」の現状と摂食障害の患者数の動向および臨床状況についてのお話。限られた時間にもかかわらず簡潔で平明なお話で興味深く聴くことができました。つづいてグループ職員による実践・研究9題の発表報告です。高田西城病院からは、①急性期治療病棟看護スタッフによる「精神疾患患者を持つ家族への支援〜アンケート調査と一事例の援助を通して〜」と ②栄養課スタッフによる「栄養管理計画書から推察するこれからの問題点〜栄養管理実施加算が導入されて〜」の2題が発表されました。

どの発表も、現場の実践を踏まえたもので、内容的にもポジティブで質の高いサービス実践への強い意欲を感じることのできるものでした。

仕事を終えた夕刻6時半から9時過ぎまでのハードなスケジュールでしたが、150人を超える参加者一同、意義深い時間を持つことができたと思います。

1

2

4

3

和・道グループ学会発表風景

1 川室会長の開会の挨拶

2 増井教授の特別講演

3 湯浅副院長の総評の様子

4 発表後の質疑応答

新しい専門外来を紹介します！ 安眠外来

植木洋一郎 医師

心身の健康を維持し、昼間十分に目覚めて充実した活動をするには、質の良い睡眠、言いかえれば「安らかな眠り」をとることが必要不可欠です。現在わが国には約5人に1人の割合で睡眠の問題を抱えている人がおり、ここ数年、睡眠の重要性が改めて注目されています。一言で睡眠の問題と言ってもその種類は非常に多く、不眠症、睡眠時無呼吸症候群（寝ている間に呼吸がしばしば止まる）、過眠症（夜間十分眠っているのに昼間の眠気が強い）、概日リズム障害（睡眠覚醒のリズムが望ましい時間からずれてしまう）、レム睡眠行動障害（寝ている間に夢と同じ行動をとってしまう）など多岐にわたっています。そして、適切な対応をとらないと、疲れやすさや集中力の低下をきたし、仕事のミスや大きな事故にもつながりかねません。

安眠外来を通じて、患者さんがよりよい睡眠をとり、少しでも快適な生活を送れるようお役に立てればと思います。

詳しくは新リーフレッ

紹介

新任 Dr. 紹介

亀田 一博 医師

このたび、高田西城病院でお世話になることになりました 亀田 一博です。

長年、小児科診療業務に携わってきました。児童の精神医療を勉強するために、この度、高田西城病院で精神医療に携わることになりました。どうぞよろしくお願い致します。

今まで（公私共に…）上越市やその近辺に足を運ぶことは多かったのですが、高田公園の桜を見る機会はありませんでした。あいにくの雨模様でしたが、先日初めて見ることができました。赴任してきて最初に感じたことは、落ち着いた静かな町だなということです。私も落ち着いた気持ちで診療に携われたらと思っております。

高田西城病院東の高田公園。
見事な桜並木と遊歩道は
《こころ》を癒してくれます。

認知症疾患医療センター開設

… 医療と福祉をつないで …

認知症疾患医療センター長　森橋恵子

当法人では、平成11年より新潟県の認可を受け、認知症疾患センターを開設しております。

厚生労働省の定める『認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト』で《認知症疾患医療センター》と呼び方を変え、今春より新潟県の指定を受けて、県内では四センターのうちのひとつとなっております。

当センターでは、上越地域における認知症疾患の保健医療水準の向上を図ることを目的として、次のような事業を行います。

① 保健医療・介護機関等と連携しながら、認知症疾患の専門医療機関として鑑別診断、急性期治療、医療相談を実施する。
② 地域保健医療・介護関係者へ情報発信や研修を行う。

一方上越市では、認知症疾患医療センターとの医療と福祉の連携強化を目的に、基幹型包括支援センターに認知症連携担当者が配置されました。

認知症疾患医療センターがもつ医療相談機能、鑑別診断機能、緊急対応機能、合併症等への対応機能、そして包括支援センターの情報集約機能、介護関連スタッフへの スーパーバイズ機能、アウトリーチ機能等がうまくコラボし、機能が補完され強化されることが求められると思います。

地域の力を底上げし、認知症になっても大丈夫と言える、そして認知症高齢者に切れ目のない医療福祉サービスが提供できるシステム作りに繋がっていけたらと願います。

http://www.nishishiro-hp.or.jp/

たばこ外来

川村 剛 診療部長

みなさん、こんにちは。平成18年4月から禁煙治療が保険適用されました。喫煙を「ニコチン依存症」という病気としてとらえ、治療を行います。当院でも、禁煙外来を開設いたしました。

すでに何人かの方が受診され、無理なく禁煙に成功されています。この場をお借りして、たばこ外来の説明をさせていただきます。治療対象となる方は下記のすべてに当てはまる方です。

① 1日の喫煙本数×喫煙年数が200を超えている
② ニコチン依存症に関わる問診表において5つ以上当てはまる
③ 今すぐ禁煙治療を望まれている

禁煙当初は、ニコチンの離脱によりイライラ感などが出現します。これを予防するために、補助薬として、張り薬や内服薬を用いて無理のない禁煙を目指します。

初診、2週後、4週後、8週後、12週後の5回の診察となります。薬代を含めた治療費の総額は300円のタバコだと40箱〜60箱位です。毎週水曜日の午後3時から開いております。

トをご覧ください！

委員会活動報告

栄養管理委員会

ある日の夕食（518kcal）

当委員会は委員長の湯浅副院長の下、各セクションの委員が集まり年4回開催しています。目的は、栄養課と病棟など関連部門が連絡を取り合い患者給食の改善向上を目指すことです。昨年10月より給食業務が全面委託になりましたので、委託会社のチーフ及び管理部の方にも入っていただいています。

当面は、委託になってまだ日が浅いため、個々の患者様の状態にどれだけ合わせられるかが課題となります。献立が変わったことで患者様の戸惑いもありました。給食を食べておられる患者様は比較的若い方から認知症の高齢者の方まで年齢層が広く、また、精神科特有の問題もあります。病院としての希望を委託会社に伝え、患者様の状態等を知ってもらうようにするには、お互いの信頼関係を築いていくことが大切だと思います。協力てし、より患者様に満足していただける給食にしていきたいです。

栄養課長　小林　敬子

セクション紹介

総務部（営繕・運転）

今回は、日ごろ《縁の下の力持ち》として病院を支えてくださっている5名のうち、4名の方々にお話を聞かせて頂きました。営繕業務としては、給湯ボイラー・冷暖房器の温度調整から諸設備の管理・点検・修繕全般を、運転業務としては精神科デイケアやショートステイ利用者様の送迎、及び先生方の各施設等への送迎などを担ってくださっています。

Q1. これまでのお仕事の中で印象に残っていること？
○運転業務でたくさんの方とお会いできたこと。（西山）○当院所有地「池の平」で夏場の草刈り。体重が1日で2キロ減った！（荻原）○糸魚川診療所からの帰りに追突されたこと。思い出したくありません…（増田）○職員のあいさつが素晴らしい！（島田）

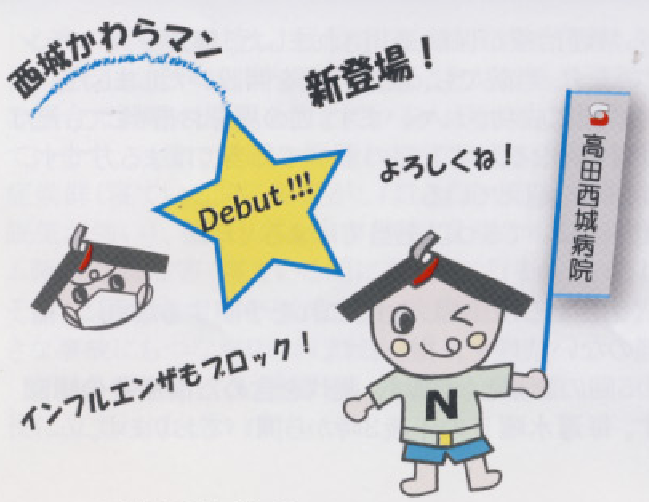
Q2. 他の職員へのメッセージ，「仕事の流儀」など…
○冬の駐車場除雪で皆様にご協力賜り、感謝します。今後も駐車カードの提示をお願いします。（西山）○認知症病棟中庭につくったミニ花壇に、秋に咲くすばらしい花を準備中です。（荻原）○前向き、積極的に、有言実行。そして平常心、平等心で。元気の源は仲町のスナックでカラオケ三昧！（増田）

中庭のハナミズキの木陰にて
後列の左から、島田、西山、
前列は増田、荻原、上は二ノ宮。
総務部の皆さんです。（敬称略）

編集後記

E-mail　info@nishishiro-hp.or.jp

西城かわらばん-第7号 ◆ 高田西城病院広報情報委員会



いつの間にか夏の足音が近づいてくる季節となりました。季節が巡るのは早いですね。 今回は『かわらばん第7号』と共に生まれたマスコット『西城かわらマン』をご紹介いたします！ 皆様の元へいち早く高田西城病院の「今」をお届けすることが西城かわらマンの役目となっております。かわらマンが仲間に加わり、今後も、『西城かわらばん』が皆様にとってさらに親しみやすいものとなりますよう一同願っております。（PSW鹿島）

かわらマンの生みの親は、広報委員で相談リハビリ部の鹿島さん。色々な表情をお楽しみに。（CP鈴木）